

夏の祭典 東京2020夏季競技大会

選手村総合診療所での 歯科診療支援スタッフとしての活動報告

豊田真基（麻布赤坂）

2021年7月23日、コロナ禍による1年の延期を経て東京2020オリンピック競技大会（第32回オリンピック競技大会）が開会しました。猛暑と新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発出下での開催となりました。開催に関しては様々なご意見があると思いますが、ここでは東京都歯科医師会の一会員として活動させて頂いた選手村総合診療所でのスポーツマウスガード提供事業の1日の流れと体験を思いつくままに書かせていただきたいと思います。

その前に、この事業は東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の協力団体である東京都歯科医師会が歯科医療体制の整備に対する協力およびスポーツマウスガードの普及・啓発事業として行なっているものです。浅野執行部の時代から理事者を中心に会員のご協力を頂き、競技スポーツのみならずスポーツを通じて

子供から高齢者まであらゆる年齢の人々の心と身体に健康をもたらし、生涯に亘って豊かな生活を送っていただきたいとの考えで、スポーツを「安全に」そして「楽しく」行なえるようにするための対策として、コンタクトスポーツや格闘技に限らずスポーツマウスガードの提供を行なってきました。

これまでに、

- ① ブラインドサッカー日本代表（東京2020パラリンピック出場）
- ② アイススレッジホッケー日本代表
- ③ ゴールボール男子日本代表
- ④ ゴールボール女子日本代表（東京2020パラリンピック出場）
- ⑤ ウィルチェアラグビー日本代表（東京2020パラリンピック出場）



Multi-Function Complex / マルチファンクションコンプレックス ©Tokyo2020

3階建ての建物で、14階建てから18階建ての居住棟がある4つの居住ブロック（PORT, SEA, PARK, SUN）のほぼ中心に位置しています。

我々が活動した選手村総合診療所は1階向かって右側の奥にあります。その他ドーピング検査室、レクリエーション施設、フィットネスセンター等、アスリート向けサービスの拠点となる多目的複合施設になっています。また向かって左の2階部分には我々フィールドキャストの食事及び休憩場所となるフィールドキャストブレイク&ダイニングが設置されています。

これらの競技に対して、スポーツマウスガード提供事業が行なわれてきました。私もこの事業に参加していた経緯から、今回は診療支援スタッフに応募させて頂くことにしました。

東京都歯科医師会は、2016年より2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、同競技大会組織委員会（以降、組織委員会）及び日本歯科医師会と連携を図り、選手村総合診療所（以降、ポリクリニック）等の対応について検討を重ねてきました。2019年5月31日付で組織委員会よりポリクリニックへの歯科医師（東京都歯科医師会会員）、歯科衛生士（本会会員診療所勤務）の診療支援スタッフ（旅費・日当無し）の派遣要請があり、それに応える形で募集が行なわれました。活動内容は、ポリクリニックでのマウスガード製作で、開催期間中に1日9時間（1時間の休憩を含む）5日以上以上の活動が求められました。その結果、歯科医師、歯科衛生士各11名が内定したものの、大変残念な事に2020年3月24日、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により東京オリンピック・パラリンピック延期が決定しました。そのため我々は2021年には感染も収束し、無事開催されることを祈りながら待機することとなりました。といっても我々ボランティアは2021年大会開催前までに何をすれば良いかもわからず、またいつから準備に入るのかなど情報が少なく、只々連絡を待っているという状態でした。本当に来年は開催されるのだろうか？マウスガードの活動は中止になったのではないかなど活動に対する詳細が届かず、困惑していました。我々にとっても1年間モチベーションを維持するのはなかなか大変な事です。一方で、コロナ禍の中での大会開催の賛否が国中で議論される中での組織委員会の活動は、とにかく大変だったのであろうことも推察されました。日々予定や計画が変更を余儀なくされ、また各部署の連携が混乱しているようで、大規模イベント開催の難しさに皆さん苦労されていたことと思います。そうこうしているうちに年が明け開会約3か月前になり、やっとメディカルスタッフ研修の案内がありました。

その内容は、e-learningにより以下の必須項目、救急医療コンテンツ総論、各論、救急医療各論・補足動画（トリアージ）、MED オリエンテーションなどが配信となり、研修することでした。5月に入ると、東京オリパラ大会活動日シフトが決定され、活動に向けて本格的に準備に入っていました。そして2021年5月23日いよいよ開会2か月前になり東京都歯科医師会主催の東京オリンピック・パラリンピックポリクリニック内歯科診療所診



歯科部門廊下

©Tokyo2020

総合受付で歯科部門に割り当てられたアスリートは、歯科受付を行ない右下の椅子に座って待機していただきます。その後、初診室での問診等を経て該当する各診療室へと誘導していきます。左右4室ずつ設置されています。左手前から消毒室、レントゲン室、残りは診療室になっています。左一番奥が歯科技工室、その手前がマウスガード担当の診療室になっています。

療支援スタッフ（歯科医師・歯科技工士）向け研修会（スポーツマウスガード作製実習）が開催され、講義と実技の最終確認を行ないました。この時、歯科医師のメンバーで未だ新型コロナワクチンを1回も接種していなかったのは私だけだったので、これには少し焦りました。もちろん医療従事者枠で接種予定でしたが、まだ順番が回ってきていませんでした。6月に入ると、選手村総合診療所での全体研修（オリエンテーション、選手村視察、選手村総合診療所視察、システム研修等）とオンラインの部門・職種別の専門研修（医療機器の確認・業務手順、診療科・診療部門の連携等）が始まり活動準備は整ったところでありましたが、我々の心配は未だ届かぬACRカード（アクレディテーションカード：IDカードのようなもの）やユニフォームの引き取りなどまだまだ不明な点が多々ありました。おそらく組織委員会も日々変わる開催の可否やそれに伴う準備等で混乱していたことが想像されました。6月の末には、ぎりぎりになりますが希望者に髄膜炎菌ワクチン接種を行なう旨の連絡があり、7月の初めに接種を受けることにしました。日本に於いて成人ではあまり気にしていないと思いますが、オリンピックのような世界中から人が集まるようなマَسギャザリングでは、感染が起こることがあるそうです。7月に入り活動2週間前になり、やっとユニフォーム等を受け取ることができました。しかしながら、肝心のACRカードは組織委員会アドバイザーであり、歯科部門チーフデンティストの近藤尚知先生（岩手

医科大学歯学部教授)からご連絡を頂き、当日ゲート前にて受け取ることになりました。ACRカード等活動当日まで受け取りができない会員もいたようですが、何はともあれ、これで選手村に入村できると一安心でした。

コロナ禍の影響で、ほとんどの競技会場では無観客での開催となり、参加アスリートは選手村や競技会場等で行動範囲が限定される中、毎日PCR検査を受けるなどの厳しいルールを守りながらの参加になりました。患者であるアスリートはもちろん、ポリクリニック内でも我々スポーツマウスガード作製チームや他の歯科部門チーム等メディカルスタッフも毎日PCR検査を受けることになっていて、感染予防と制御の体制が執られていました。また、当然我々にも行動制限がかけられていました。選手村は選手にとっての生活空間であるため、我々フィールドキャストは、業務上必要となる範囲内でのみ、行動が認められていました。つまりTPC：チームプロセッシングセンター（選手団が一番初めに入村する施設）からポリクリニックまでの往復と食事提供場所（フィールドキャストブレイク&ダイニング）のみ許可されていたという事です（余談ですが、オリンピック関係の用語は、とにかくアルファベットの略語が多く、とてもじゃないですが頭の中に入りませんでした）。また、村内での移動にあたっては、定められた動線を通行するようになっていて、極力選手達との距離をとるように指示されていました。本来であれば、オリンピックに関わる世界中の人々と選手村の中で触れ合うことができる機会であったのと思うと大変残念に思いましたが、コロナ禍の中では、これも仕方ない事です。ビレッジプラザ内にある雑貨店・カフェ・TOKYO2020オフィシャルショップ等の各店舗についてもフィールドキャストの利用は禁止されていて、グッズも購入できず、また村内での携帯電話、スマートフォン、及びカメラ等を用いた写真・動画撮影・録音等は原則禁止、写真や動画の有無に関わらず、村内での業務および活動を通して知り得た情報をSNSに掲載することは、媒体を問わず禁止となっていました。そのため活動中の写真や風景、雰囲気等を部分的にしかご紹介できないのが大変残念ですが、イメージしていただければと思います。

前置きが長くなりましたが、ここから一日の流れを書いていこうと思います。勝どき駅からTPCのゲートまで約10分、猛暑の中徒歩で向かいます。ボランティアの方々が揃いのユニフォームを着て歩いていきます。ゲート前にチーフデンティストの近藤尚知先生のお出迎



歯科チェアー ©Tokyo2020

マウスガード担当の診療室は脚折式のユニットになっていました。最新式のユニットで感染対策も万全でした。室内の壁は石膏ボードのまま、壁紙は貼られていません。遠慮なく付箋を貼ることができました。

えがあり、ACRカードを受け取り、遂に入村です。前からACRカードを下げ、TPCに入ります。中は多少涼しいのですが、既にこの時点で滝のような汗をかいています。Accreditation Check Point (ACP) を通過し、顔認証による本人確認とACRカードのIDチェックを行ない、選手村にアクセスする権限があることが確認されます。次にPedestrian Screening Area (PSA) を通過します。飛行場における保安検査場と同じで、手荷物検査とボディチェックが行なわれます。ここで危険物などが持ち込まれていないことが確認され、これが終わるとフィールドキャストチェックインに向かいます。ACRカードを提示し出席確認を済ませ次第、ミールバウチャーや飲料水などを受け取り、ポリクリニックへと向かいます。川沿いの緑道公園に沿って炎天下の約20分のウォーキングです。1ヵ月前の選手村視察の時には、工事用のパネルや足場が散見されていた居住棟（最高18階までありました）は、すっかり完成していて作業の早さにビックリしました。炎天下で熱風を浴びながら、額の汗を拭き拭き、お台場の景色を見て気分を紛らわせ、何とかポリクリニックに到着です。ポリクリニックはマル



歯科技工室

©Tokyo2020

メタルフリーの診療の為、最新のCAD/CAMも設置されています。鑄造器はありません。そして、マウスガード作製の為の歯科技工用形成器も設置されています（赤い機器）。

チファンクションコンプレックスという建物の1階に位置しています。着いたらまず更衣室でユニフォーム（ボランティアの方が着ているのと同じ青のポロシャツとグレーのパンツ）に着替え（更衣室の中では、どこからともなく「暑い、暑い…」という声が聞こえてきます）、その上に赤いビブスを着て歯科診療部門へと進みます。診療部門は、歯科の他、外科、整形外科・内科・眼科など競技に必要な科が設置されています。その中でも歯科診療部門は、整形外科とほぼ同じ面積が与えられていて、大会中のニーズの高さがうかがえました。すべての競技者が安心・安全に、そしてイコールコンディションで参加できるようポリクリニックでは様々な配慮がされています。その他にもコールドバスやリハビリ機器なども完備されています。歯科診療室は最新の機器が用意された6つの個室（初診、オーラルケア、エンド、口腔外科、保存・修復、マウスガード）に分かれ（マウスガード以外の診療室は、大学関係からのサポートが行なわれています）、その他レントゲン室（CTも設置されています。また医療機器メーカーのスタッフがサポートの為に常駐しています）、歯科技工室（一般社団法人東京都歯科技工士会からのボランティアの方々のご協力です。充填物、補綴物はすべてメタルフリーで行なわれるため、最新のCAD/CAM等も設置されています）、消毒室が完備されています。各診察室には口腔外バキューム、HEPA フィルター付きエアクリナーが設置されていて換気にも配慮されています。診療においてはディスプレイ対応可能なものはディスプレイの器具を使用することに

なっていました。感染対策には相当考慮されているものとなっていました。またタービン、超音波スケーラー等、飛沫が飛ぶような処置の場合にはPPE（個人用防護具：アイソレーションガウンあるいはポリエチレン袖付きエプロン、ディスポキャップ、N95マスク、フェイスシールド、ニトリルグローブあるいはプラスチックグローブが基本セットです）を着用するよう伝えられました。

さて、私のシフトはというと、トップバッターでオリンピック開会前の言わばテストランの時期の担当でしたので、室内環境を整え（整理整頓?）、コンピューターの使い方等を引継ぎできるようにしながら、マウスガード作製をすることになりました。先のオンサイトの専門研修で理解していたつもりでしたが、EMR（Electronic Medical Records 電子カルテのようなもの）システムの取り扱いには大変苦労しました。患者管理・個人情報等、特に注意が払われていて、入力者のログインID、Microsoft authenticator からダウンロードされた個人のスマホに送られてくるワンタイムパスワードとスポーツマウスガード作製希望者のACR番号を入力するという何重にも保護されたシステムを理解するだけで大変な上に、毎回同じ手順で入力を行なわなければなりません。また、レントゲンのオーダーやviewerもPC上で行ないます（我々の診療室では、ほぼ必要がありませんが）。その一方で、予約状況の管理は受付のPCからプリントアウトされたものを使うなど連携が上手くいっていない部分もあり（後日、PCでも確認できるようになりました）、デジタル化も時に不便なものとして感じました（特に歯科技工指示書のやり取りは、最終的に紙になりました）。このような手順を思いつくままに付箋に書き、その他にも印象材の使い方、歯科技工指示書の書き方、機材の使用法等も合わせて診療室内の壁に地道にベタベタと貼り付けていきました。因みに、ポリクリニックの建物は新しいものでしたが、内部の壁は石膏ボードが塗装も壁紙もされていない状態になっていました。その理由は、オリパラ終了後には壁は取り払われ、内装をし直して他の用途への活用が予定されているからだそうです。選手村の居住棟も新築に向けた改修工事が行なわれるという事は、みなさんご存知の事と思います。

そして準備が整ったところでN95マスクを着け活動へと入ります。ポリクリニックは、基本的に完全予約制になっています。予約方法は、WEBや電話によるもの、あるいは直接来られ予約を取る方もいらっしゃいます。

まず総合受付にて部門の振り分けを行ない、歯科診療部門へと入ってきます。歯科受付にて患者には番号が与えられ（ACRにて本人確認を行ない、名前を呼ぶことはありません。読めない文字もありますから）、問診と歯科治療同意書が採られ初診室へと入っていきます。その後、初診担当からの申し送り（問診表・同意書・患歯の確認、既往歴、アレルギー等）が行なわれます。また今回のオリンピックは競技終了後2日以内に帰国することになっていたため、離村の日程も確認されました（コロナ禍での開催という事で、競技終了後の作製は行なわないことになっていました）。その後、受付にて一旦待機していただき、我々の診療室のPC上あるいは直接連絡が入ります。連絡を受けたら受付に向かいマウスガード作製希望の選手の番号を呼び、診療室へと案内を行ないます（マウスガード作製担当には必要ありませんでしたが、他の治療に関してはすべて治療の説明が行なわれ同意書にサインを頂くことになっています）。まずは笑顔でご挨拶をして診療室内へ誘導します。扉を閉め、ユニットに座っていただき、診療前に洗口剤にてしっかりと洗口をして頂きます（会話は英語を用いますが、翻訳機も用意されていました。私の場合、フランス語圏の選手との会話が必要になり、その際に大きな助けとなりました）。その後、通法通り、トレーの試適、印象採得を行ないます。採った印象は消毒後、歯科技工室へと運びます。日本人と歯列の形態・大きさが違うのか？印象材がデイスポのトレーから剥がれないように工夫をしていきました。トレーのサイズ調整を行なったり、トレーに接着剤を塗ったり、印象採得も通常より難しかったように思います。その後、今回は希望する1色あるいは2色のEVAシートを選んでいただき、基本的には48時間以内で装着できるよう受付にて次回の予約を取ります。時に希望者が一気に押し寄せることもあり、他の部署のスタッフが進んで協力を申し出てくれることもありました。ポリクリニックで初めて顔合わせをしたとは思えない程の連携を取ることができ、まさにOne Teamの活動ができたと思います。その一方で、時間に追われる歯科技工士さんは相当ご苦労されたと思います。選手達が選択したマウスガードの色は、男性は各国のNational color、女性は白を希望することが多かったような気がします（開会後はどうだったのでしょうか？）。そして一人毎に診療が終わったら、PPEを脱衣します。使用した器具は感染対策の為、診察室内で蓋つきのケースに入れ、蓋を閉めたうえで消毒室へ移動させます。そしてそのまま診療室の外に出て15分待機します（その間、口腔

外バキュームとHEPAフィルター付きエアクリナーが大活躍しています）。それにより飛沫制御を図り、その後清拭により消毒する手順になっていました。そしてEMR入力（これが結構面倒な作業でした）と歯科技工指示書作成を行ないます（予約が詰まっている時は、時間の無駄がないように待機中に他のPCで入力することもありました）。そして2回目の診療は、マウスガードの装着になります。氏名等の確認（EMR確認）から始まり→でき上がったマウスガードの色を確認→口腔内検査（装着に支障がないかを確認）→マウスガードを口腔内に試適→一旦外して、咬合面のみ軟化し前歯部に圧痕が付くまで咬ませる→咬合調整→辺縁と内面の調整という手順で行ないます。スポーツマウスガード作製実習の際に用意されていた器具がいくつか足りていないこともあって（最初の段階では）少々不自由なこともありましたが、歯科技工士さんのご努力により、マウスガードは、ほとんど調整なく装着することができ、選手たちも大変喜んでくれました。感謝です。その後EMR入力を行ない終了となります。

さて治療も一段落ついたところで昼食を摂りに食事提供場所（フィールドキャストブレイク&ダイニング）に向かいます。同じ建物の2階にありますが、猛暑の中、一度外に出なくてはなりません。たった数分の距離ですが、太陽が真上にある時間帯はまるでサウナの中にいるような暑さでした。入口で毎朝受け取るミールバウチャーを提示し、入場します。ドリンク1本（これらはすべてパートナーの提供になります）と定食と丼物のどちらかを選び、アクリルのパーテーションで仕切られたテーブル席で食事をとります。巨大な学食のようなものを想像してください。選手達が食事をとるビュッフェスタイルと同じと勝手に思い込んでいたので、ちょっと残念でした。この場所は、様々なボランティアスタッフが食事や休憩で利用する施設になります。ボランティアスタッフの中で特に屋外の活動を行なっている方々は連日の猛暑でぐったりとされていて、開会式に近づくにつれてその人数も増えていきました。改めて東京オリンピックが多くボランティアに支えられて開催されることを肌で感じる事ができました。食事が終わり次第、診療室へと戻ります。午後の部でもう一仕事済ませ1日の活動が終了します。更衣室で着替え外に出て、まだまだ日が高い空を見上げ、潮の香りを一呼吸。選手村の歩道を各国選手の楽しそうな（開会前だったからでしょうか？）往来を見ながらTPCゲートへと向かい選手村を後にします。勝どき駅に到着する頃には、またもや汗だ

くの状態になってしまうという毎日でした。猛暑の中、この行き帰りの道のりが何と言っても一番辛い事でした。

たった5日の短い体験でしたが、二度と経験することがないであろう貴重な、そして充実した日々を過ごすことができました。後日、スポーツマウスガードの提供は各国選手に大変好評を得たと伺いました。コロナ禍の中でのオリンピックではありましたが、最終的には200個以上のスポーツマウスガードの提供を行なうことができました。オリンピックボランティアとして参加した甲斐があったと思いました。9月5日にパラリンピックも閉会となりましたが、オリンピック・パラリンピックが単なる競技ではなく、世界中のアスリートが個人の可能性に賭ける姿に感動を覚えるとともに、東京都歯科医師会の一会員としてその一端に関われたことを誇りに思

います。そして我々の活動が、スポーツを「安全に」そして「楽しく」行なうためのスポーツマウスガードの普及と啓発の一助になれば幸いです。

この度のポリクリニックでの活動に際し、チーフデンティストの近藤先生、コアメンバーの先生方、各大学からの先生方、東京都歯科技工士の皆様、歯科衛生士の皆様、サポートについてくれた歯科関連メーカーのスタッフの皆様には大変お世話になりました。IOCが望んでいた東京オリンピック・パラリンピックに於いて日本の知識と技術を集結し、高い歯科医療サービスの提供ができたのではないかと考えています。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えて頂いたIOC、IPC、JOC、組織委員会そして東京都歯科医師会関係者の皆様に感謝申し上げます。

選手村総合診療所での診療に協力して頂いた東京都歯科医師会 診療支援スタッフ22名
(順不同・敬称略)

	歯科医師	歯科衛生士	地 区
1	齋藤 元	齋藤 浩美	京 橋
2	豊田 真基	坂本 若葉	麻布赤坂
3	中村 昇司	小林くるみ	京 橋
4	小松もと子	森田 祐子	中野区
5	天川由美子	三木 和子	麻布赤坂
6	中嶋裕佳子	山口 佳美	文京区
7	中村さゆり	諸岡 亮	渋谷区
8	後藤 隆治	和田 茉純	玉 川
9	吉田 憲明	雨宮 智輝	渋谷区
10	大塚 美香	新井 典子	江東区
11	青木 大地	増山 萌子	京 橋

東京2020大会にかかわる感謝状贈呈式

去る令和3年10月26日（火）、都庁大会議場にて、東京都から『東京2020大会』の開催に当たり、貢献された団体等への功績並びに感謝の意を表するため、小池百合子都知事より、本会の井上恵司会長に対し、感謝状の贈呈が行なわれた。

当日は、三宅しげき都議会議長、本橋ひろたか都議会副議長、高島なおきオリ・パラ特別委員会委員長も同席の中、小池都知事、橋本聖子東京2020組織委員会会長、そして、オリンピック選手団を代表して、卓球日本代表の張本智和選手やパラリンピック自転車代表の杉浦桂子選手から挨拶を頂いた。

式典後には、東京2020大会においてメダルを獲得した、東京在住、在勤など東京ゆかりのメダリストに対し「都民スポーツ大賞」を、金メダルを獲得した選手に「東京都栄誉賞」が贈呈された。

